

郷土にまつわる歴史講座  
(協力・明治文庫の会)

# 海の時代から 石の島の時代へ ～塩飽をめぐる諸相～

香川歴史学会会長

講師 橋詰 茂氏



日時 令和5年5月21日(日)

午後1時30分から3時

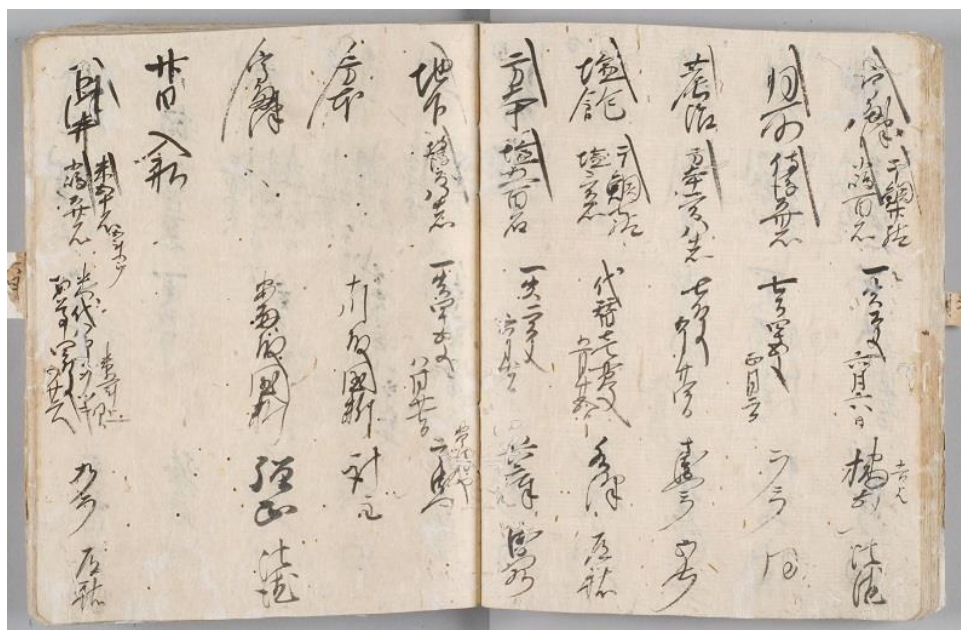
場所 マルタス1階多目的ホール

定員 60人 ※先着順でお願いします

料金 無料

問合せ 丸亀市立中央図書館

TEL0877-22-3746



兵庫北関入船納帳

令和5年5月21日（日）

午後1時30分～3時

## 郷土にまつわる歴史講座

演題 「海の時代から石の島の時代へ  
～塩飽をめぐる諸相～」

講師 香川歴史学会会長  
橋詰 茂氏

備讃瀬戸の中央部に位置する塩飽は、古来より多くの船の風待ち・潮待ちの寄港地として栄えていた。海の時代と称する室町時代の史料から、大量の物資が塩飽船で輸送されていることを知る。またキリスト教の宣教師が度々訪れ、讃岐で最初にキリスト教がもたらされ、あたらしい文化の伝播した地でもあった。このような島は、時の権力者にとって瀬戸内海制海権を掌握する重要地である。そこで塩飽を支配するために朱印状を下付した。それが朱印状の島といわれる所以である。様々な歴史的過程を踏まえ、現在は石の島として日本遺産に認定された塩飽、島の中世から近世初頭の様相を垣間見てみたい。



織田信長朱印状